

1631A

布の手仕事とリユース文化

布の手仕事とリユース文化

関連する SDGs :

期 間：2024 年 8/26 (月) ~9/9 (月) [全 3 回]
場 所：尚綱学院大学地域連携交流プラザ〒981-1294 名取市せきのした 5-3-1
(イオンモール名取あおばコート 3 階)

時 間：10:30~12:00

対 象 者：テーマに興味・関心があり学んでみたいと思っている方。

持 ち 物：筆記用具

修了要件：80%以上出席した方に修了証を発行予定です。

申込フォーム

スマートフォンからも
お申込みできます定 員：20 名
最少催行人数：8 名
受 講 料：3,900 円

受講生へのメッセージ

★☆☆ (レベル1：初心者~初級者)

小布・古着を再利用する日本と欧米の手工芸の魅力を紹介します。生活で育まれた技芸には、歴史的な背景や文化的な意味があります。先人の知恵や工夫を知ること、現代の生活での課題発見や、楽しむヒントが見つけれたら嬉しいです。

| 日程 | テーマ・内容 | 講 師 |
|---------------|---|---|
| 第 1 回 8/26 | 日本の伝統的な布リユースと古布・古着流通の歴史 伝統的生活が引き継がれた昭和初期までは布は貴重なものであり、古布を生かして衣服や生活用具を手作りして来ました。端縫(はぬい)、刺子(さしこ)、裂織(さきおり)など各地技芸の紹介と、それを支えた江戸時代からの商人による古着流通について解説します。 | 玉田 真紀 尚綱学院大学 名誉教授、 服飾文化学会会長 |
| 第 2 回 9/2 | 端縫着物と仏供米袋の魅力 小布を縫い合わせて作った着物や袋物は日本各地に見られます。例えば百徳着物は、長寿者の着物端裂(はぎれ)を縫い合わせ祈りを込めるなど、布や縫いには作り手の思いが込められて来ました。端縫の仏供米(ぶぐまい)袋も日本文化と結びつきがあり、大量消費社会の中で消滅しつつあります。日本文化を知る大切さをお伝えします。 |  |
| 第 3 回 9/9 | アメリカン・パッチワークキルトの文化 17 世紀新大陸に渡った人々と共に、西洋からキルトは持ち込まれ、19 世紀~20 世紀初頭にベットカバーとしてのキルトが作られました。小布を縫い合わせた文様には信仰・植物・動物・生活用具・友情の証などが綴られ、民衆芸術と言えます。 尚綱女学校創設期(19 世紀末)、初代校長ブゼル先生由来のキルトも現物をお見せします。 | |